

I 共通項目

基本目標 心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現

目標	取組の内容	評価	分析及び改善策
心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現	<p>1 豊かな心の育成</p> <p>① いじめ、不登校への適切な対応</p> <p>② 明るく丁寧な挨拶・返事</p>	3	<p>○ 教師の積極的な児童への関わりにより予防と、早期発見、早期対応ができた。児童アンケート4「私はいじめのない学校にしようとしています。」からは児童の心の育成、5の「先生は、話を聞いてくれます」の評価からは教員との良好な関係が築かれていることがわかる。また保護者アンケート5「教育相談体制」についても高い評価をいただいている。今年度もいじめ案件があったが、保護者の協力も得ながら解消に向かっている。不登校の改善も進んでいるが、完全登校には至っていない。今後も改善に向けて専門機関と連携しながら、組織的な取組を続けていく。</p> <p>○ 年間を通した指導と共に、育友会の挨拶運動、教職員や高学年による手本が示され、校内の挨拶についてはかなり改善されている。しかし、個人差が大きかったり、家庭や地域での挨拶の評価には、2割の保護者が2以下の評価をしたりしており、依然改善の余地がある。学校・家庭・地域が連携しながらよい習慣を身に付けさせていく。</p>
	<p>2 基礎学力の充実</p> <p>① 学習規律の徹底</p> <p>② 自主的な学習の習慣化</p>	3	<p>○ 校内で統一して、学習規律チェックシートを用いて、準備物や学び方を毎月振り返り、よい学びの習慣化を図った。個人差はあるものの改善傾向にある。校内研究では、主体的に学ぶ、協働的に友達と学びを深めることを目指して、年間を通して授業研究を行った。教職員の意識が高まり、本校で目指す授業づくりの実践が進んだ。それに伴い、授業中に自ら学ぶ子供の姿が増えたことは大きな成果である。全国学力学習状況調査、長崎県学力調査では、平均を上回る学力の習得が見られた。</p> <p>○ 児童アンケート11、保護者アンケート11の家庭学習の項目では2や1と評価する人数が多い。今後さらなる改善が必要である。そのような中であっても、9月のながよ検定では、平均合格率は97%であった。夏季休業中の家庭での学習の成果が発揮され、児童はやればできるという喜びを味わうことができた。</p> <p>その要因としては、出された課題にはまじめに取り組む児童が多いことや、教職員の児童理解によって、その子に応じた課題を出し、進んで学習するように背中を押せたことが大きかったと考える。</p> <p>今後はさらに、主体的な授業づくりが主体的な家庭学習につながるよう研究を深めていく。</p>



<p>6 教育環境の整備</p> <p>① 黙々掃除（協働・黙働）による美化活動の充実</p> <p>② 校舎内外の環境整備</p>	<p>3</p>	<p>○ 全校で統一して、黙想で心落ち着かせてから清掃指導を行っている。年間を通した指導により、児童アンケート6の自己評価も高い。学年が進むにつれて指導の成果がみられ、高学年が低学年のよい手本となっている。児童の学校自慢となるように指導と評価をしっかりと行い、継続して取り組んでいく。</p> <p>○ 限られた予算の中ではあるが、修繕が必要なところは、その都度適切に行われている。</p> <p>育友会も協力的で、忙しい毎日の中に、時間を作って校庭や中庭の除草作業を行ってくださった。さらに今年度は、地域の方が集まって、機械を用いて除草作業や剪定作業を行ってくださった。中庭の枯山水に込められた思いも知ることができた。心をつなぎ、心を込めて、児童にできること、協力していただくことを計画して、誇れる学校づくりに取り組んでいく。</p>
<p>7 教職員の資質向上</p> <p>① 指導力の向上</p> <p>② 組織としての指導</p>	<p>4</p>	<p>○ 校内研究で、授業改善に向けた共通目標を、共通実践することができた。さらに日常的に、同学年に学ぶ、ベテランに学ぶ、若手に学ぶ等、相互に研鑽するよい職員風土も受け継がれている。特に3学期は、安定した学級経営とともに、進んで学ぶ児童の姿が見られるようになっている。児童の姿に取組の成果が現れていると考える。</p> <p>○ 今年度は「漲り」を合言葉に学校教育目標の具現化を図った。幅広い年齢層で構成された職員集団であるため、同学年が協働して学年経営の充実を図ることで、各学級の安定化を図った。実践を図る中で、一人一人の教職員の漲った心がつながり、協働して学校運営の充実と安定化を図る取り組みへと成長し、児童理解が進んだり、よりよく保護者と連携することができたり、児童への個別対応ができたりして、それぞれの学級経営の安定化につながったと考える。</p>

## 2 自己評価のまとめ（成果・課題等）

### 2 自己評価のまとめ（成果・課題等）

#### （1）成果

- ① 個に応じた特別支援教育が充実した。
- ② 校内での挨拶や黙々掃除のよい習慣が向上した
- ③ 協働的な学校づくりが推進され、各学級の経営の安定化が図られた。

#### （2）課題等

- ① 学力を向上させなければならない。
- ② 生活リズムや言葉遣い、読書等のよい習慣づくりが必要である。
- ③ 全ての児童が安心して登校できる個別の対応が必要である。

## 3 学校関係者評価

### 3 学校関係者評価

- ・ 特別支援教育の充実や教職員の資質向上の評価については、自己評価以上のものがあると考え
- る。
- ・ 教職員の協働的な学校づくりにより、明るく、よい雰囲気で行われている。
- ・ 学校の教育課程の中で、地域とのよい連携ができては始めている。大人が人とのつながりのよさを子供たちに見せられるような学校や地域にしていきたい。
- ・ 子供たちは校内での挨拶はよくなっている。地域でも子供の挨拶の声が聞こえはじめてきている。もっと広がるように、大人が挨拶の声をかけていきたい。顔なじみが広がり、増えれば、地域がよい教育環境になることにもつながると考える。
- ・ 地域や保護者が、学校教育の参観ではなく、参加できる用意ができるとよい。

## 4 対策等の見直し（学校関係者評価を受けて）

### 4 対策等の見直し（学校関係者評価を受けて）

- ・ 学校教育の充実のために、教育課程の中で、地域の教育力を活用するカリキュラムマネジメントの充実を進めていく。
- ・ 学校での取り組みを地域の方に理解と協力をしていただくために、学校運営協議会の充実を図り、コミュニティスクールとして地域とのよりよい関係づくりを進めていく。
- ・ 地域とともにある学校、学校とともにある地域を目指し、子供たちが学校教育を通してふるさとへの愛着を深められるようにしていきたい。

## 5 その他

### 5 その他（特になければ記入不要）

#### 【留意点】

評価は、自己評価をもとに学校関係者評価にも十分配慮し、総合的に判断し記入する。  
評価は4段階とし、以下による。

- |                   |                |
|-------------------|----------------|
| 4 十分達成できている       | 3 概ね達成できている    |
| 2 どちらかという達成できていない | 4 ほとんど達成できていない |